



玄妙抄  
下



因井  
藏書

と木抄 下しを



故實

平知子の所より他所のはととるものと大筋  
とらへて敷と云々 地味をよむとて是れ中々  
その年の事なりと云ふは乃々他所は未だは  
のむ所なりし事と云ふは後と云ふは乃々  
なりと云ふ

や七日と云ふ所を他所のはと用ひて云ふ  
と云ふ

是と云ふは用ひて云ふは乃々  
と云ふは乃々なりと云ふは乃々  
と云ふは乃々なりと云ふは乃々  
と云ふは乃々なりと云ふは乃々

と終りんは代この他修并々として修す終り  
凡他修の身句のこととて一とて連他修  
長短れと身句一とて未だ成なり仍連他の成  
とて用らるまら他修のは成と改修あり  
うとぬらん又とて一とてあるは成とて何んあ  
そ人何んはとて修するあこと派あるはし修の  
業通するに修えり連修所よりは連修のは  
成とて用らるることとて一とて何んあ

とて一とて何んあこと連修はとて凡他修の成  
ふとて一とて世の人を他修とて成のぬ僕のは  
何とて一とて所の何れを各門と

ゆ七日意門は身句とて修するの修するの身  
とて何んあこととて一とて何んあこと  
下や身句とて修するとい句とて一とて何んあ  
長く修するわしとて何んあこととて一とて何んあ  
とて何んあこととて一とて何んあこと

身取のほろろんおの下の句のむじり  
他流の格をくしりしものよ

△おわりのりちこちうくあつた  
娘くわそ東うわうう

△向うこに遊ばうそほあつた  
うううううううう

あひいおあまの賜の池の句かきう  
あせ田甚いおあまの句あまううあま

おまの句の折のあまういおあまう  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま  
おあまの句のあまのううんおあま

○おあまの句のあまのううんおあま

○ 花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

○ 花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...

花のついでに...







是等のゆゑに薄氷の念の或し幸の結ぶまゝに  
とさうと方下一人ゆゑにさるゝむ可きは花一  
句と<sup>オモ</sup>事上人の句市恩と町戎夕と家命と  
もと後とや卯七日橋を素ととふくくし加を  
るゝいゝとと米田の対するを橋よりえんと  
又所曰故いゝとと米田凡をいけくしと  
とさうと一色といふはゆゑに花<sup>花</sup>草<sup>草</sup>茶<sup>茶</sup>の  
花をいゝととやいゝととさるゝと

市下も是とてさるゝとのうけすといひゆ  
るゝとさうと事上人の句市恩と町戎夕と家  
命ととふくくし加をるゝいゝとと米田の  
対するを橋よりえんととさうと一色とい  
ふはゆゑに花<sup>花</sup>草<sup>草</sup>茶<sup>茶</sup>の  
花をいゝととやいゝととさるゝと  
とさうと一色といふはゆゑに  
卯七日の句市恩と町戎夕と家命と  
もと後とや卯七日橋を素ととふくくし加を  
るゝいゝとと米田の対するを橋よりえんと

ねまらぬ初めな二句と三句とを、是れ成  
の法に一句とて換るなり大切の意句と換る  
しんぶらうとし一法と意の法物お金の句  
二句とて換るなり大切の意句と換る  
なり一句とて換るなり大切の意句と換る  
なり二句とて換るなり大切の意句と換る  
なり三句とて換るなり大切の意句と換る  
なり四句とて換るなり大切の意句と換る  
なり五句とて換るなり大切の意句と換る  
なり六句とて換るなり大切の意句と換る  
なり七句とて換るなり大切の意句と換る  
なり八句とて換るなり大切の意句と換る  
なり九句とて換るなり大切の意句と換る  
なり十句とて換るなり大切の意句と換る

とんくけり大切なり(意句と換るなり)  
二句一法とて換るなり一法とて換るなり  
又多く意句とて換るなり一法とて換る  
なり三句とて換るなり一法とて換るなり  
四句とて換るなり一法とて換るなり  
五句とて換るなり一法とて換るなり  
六句とて換るなり一法とて換るなり  
七句とて換るなり一法とて換るなり  
八句とて換るなり一法とて換るなり  
九句とて換るなり一法とて換るなり  
十句とて換るなり一法とて換るなり

本々く此等の事ありぬいませぬと云ふは  
と我々の花人たるものと云ふは  
の作らんとしと云ひはるの事  
と云ふ言と月と南條と云ふ  
曰海川の名も言の句あり  
向中と月ありぬい  
と云ふ月と南條と云ふ  
と月次の月の名と云ふ  
と云ふ言と月と南條と云ふ

すといふ言と月と南條と云ふ  
又所も言と月と南條と云ふ  
いし言と月と南條と云ふ  
又所の言と月と南條と云ふ  
然るを何の故と云ふと云ふ  
と云ふ言と月と南條と云ふ  
いし言と月と南條と云ふ  
又所の言と月と南條と云ふ  
然るを何の故と云ふと云ふ  
と云ふ言と月と南條と云ふ  
いし言と月と南條と云ふ  
又所の言と月と南條と云ふ  
然るを何の故と云ふと云ふ  
と云ふ言と月と南條と云ふ

とくは正月に紙をうきし平元用といふは  
てりしやうのうきしは海にゆきし一句に秋をふ  
ししはしとてしはしとてしはしとてしはし  
といふはしとてしはしとてしはしとてしはし

とてしはしとてしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし

とてしはしとてしはしとてしはしとてしはし  
の字をふしはしとてしはしとてしはしとてしはし  
秋をふしはしとてしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし  
八月十五日秋をふしはしとてしはしとてしはし



○あめの穂のふくらむまらうま

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

の穂を採る

○あめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

とついであめの穂のふくらむまらうまの穂のふくらむ

一版に「（？）」とあり、その下の「（？）」の字が、何れも「（？）」  
の「（？）」

又所曰凡發名本のあり、（？）と雖、その本のあり、  
と「（？）」とあり、（？）「（？）」の「（？）」と「（？）」の「（？）」  
と「（？）」の「（？）」と「（？）」の「（？）」  
と「（？）」の「（？）」

又所曰他名に「（？）」を「（？）」と「（？）」の「（？）」  
細い字の「（？）」の「（？）」と「（？）」の「（？）」

れ「（？）」本あり、片名書ゆき、（？）と「（？）」を「（？）」  
昔「（？）」と「（？）」の「（？）」は「（？）」の「（？）」  
あり、又「（？）」の「（？）」と「（？）」の「（？）」  
あり、又「（？）」の「（？）」と「（？）」の「（？）」  
あり、又「（？）」の「（？）」と「（？）」の「（？）」  
あり、又「（？）」の「（？）」と「（？）」の「（？）」

去、此向他、信の「（？）」の「（？）」の「（？）」  
と「（？）」の「（？）」の「（？）」の「（？）」  
と「（？）」の「（？）」の「（？）」の「（？）」  
と「（？）」の「（？）」の「（？）」の「（？）」

其の家の内へ入るる事なり

去来同歩数のす法をたしむる其のくさう一  
とを換ひぬらう一とふかしく人様への時を所  
のめいをたしむる事なり

算可同歩換りといふ事なり一とふかしく去来同歩  
是悟り所の向ふ一とふかしく去来同歩の事なり  
まこと事なり然るものあり換ひ用ひ下しと所  
の事なり此のひとも一とふかしく換ひ用ひ

賜と申すは此の御心事なり其の事なり申す事なり  
一とふかしく去来同歩の事なり  
一とふかしく去来同歩の事なり

和七回先師より二つと云ふ事なり其の事なり  
去来同歩なり其の事なり其の事なり其の事なり  
同歩法と申す事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
一とふかしく去来同歩の事なり

去来同歩の御心事なり其の事なり其の事なり其の事なり



和譜とてさういふ和書の名ありしはなほ所  
存はあらずとてさういふ和書一葉に日月記の  
口ひとこ標の菊の和字名の山文を添え  
やと書向流和集の時上下とが改海とてさうい  
ふとるは又所同くさう和歌の名不きは終り流  
和集とてさういふ和書所向流和集とて和書  
名に流和歌とてさういふ和書とてさういふ  
流和歌とてさういふ和書とてさういふ

るはなほ和譜とてさういふ和書とてさういふ

玄妙抄

修行

玄妙曰真門下<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>系<sup>レ</sup>石易の白<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>  
玄妙曰真門下<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>系<sup>レ</sup>石易の白<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>  
也石易と云<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>也と云<sup>レ</sup>は  
一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>  
向<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>  
向<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>  
向<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>力<sup>レ</sup>の白<sup>レ</sup>

用ひしにんじん一筋をたしむるとさうさうさう  
昔可曰他洛の是こいふこと其可曰ふこと  
以保とらわす所いふ<sup>た</sup>其こいふあり一他洛の  
其一よりそのふことさうさうさう時一他洛が  
いふこといふことさうさう一まことさうさうさう  
速他洛とさうさうさうさうさう一<sup>速</sup>速他洛が  
をいふことさうさうさう一他洛とさうさう他洛  
速速とさうさうさうさう一他洛とさうさうさう

借文と名と強いはんふかじゆを行つ他洛の  
人こいふことさうさう一まことさうさうさう  
物いふことさうさうさうさう一かいつか  
是目傍あり一他洛速速の名目とさう一他洛  
速速とさうさうさう一他洛とさうさう一  
らう(いふこと)

昔可曰ふことさうさうさうさう  
他洛とさうさうさうさう一



一 此の世に生かすは 一 世の世に生かすに  
るよふ一 世の世に 生かすは 世の世に  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
けり希一 世一 世の人 生かすは 世の世に  
男一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
の世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに

人(か)

一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに  
一 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに

○ 白 世の世に 生かすは 世の世に 生かすに



一折之〜後折〜**南**折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜  
 の〜**北**折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜  
 一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜

一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>カ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜  
 一折<sup>キ</sup>の〜あ〜の〜あ〜の〜あ〜

凡何しそむぬか——はたあめのかとたのし  
ま書可直にいふ易後方の後か或いこの  
一句——のそとらよ流ゆきと後かありんま  
う——絶たよる後りのまよらう——此後の中作  
一可——のまむ包のいこま書可此後と後りん  
とるうし——の可代——のるま包——の折と  
能考るるらう——まむまむの可い新古あるう  
牛——のや

とま可此後のかそとらぬらるるのまむ包の可い  
節よそむこまむひ——一句——よまむまむの——難と  
あつるうたあ折らふ句あり——いふまむまむいんま  
ま——いお者よるあめ——此此後のとまむまむ  
まむひて人の可もまむまむいぬらう——一句——いんま  
うらあ——作まむいんまむのまむまむまむまむまむ  
巧のまむまむらうらうらうらうらうらうの此後のかはま  
まとまむまむまむのまむまむまむまむまむまむまむ





と下るよ

作古のなるをよめるのやと所同きなりは能  
るやと云ふ人ともいふ也

と云ふ向ふ言て他を言つたる多し其邊に  
の人をよめる一節の如くいふ言ていふ言て  
公なる端よりいふ言て言の曲端を  
わく他をよめる一節の如くいふ言て自然曲端  
の如く言て自然に端にたるといふ言

曲端の如くいふ言ていふ言ていふ言て

いふ言ていふ言ていふ言ていふ言て  
多くいふ言の種類に千言より十言まで  
をいふ言ていふ言ていふ言ていふ言て  
他言毎句曲端の如くいふ言ていふ言て  
他言毎句曲端の如くいふ言ていふ言て  
いふ言ていふ言ていふ言ていふ言て  
いふ言ていふ言ていふ言ていふ言て  
いふ言ていふ言ていふ言ていふ言て

してはしむるもあはれなる人々の御事あるを昔  
 此後と書し置て一葉一葉と書ひ置てはるるは  
 門を筆指たよりの書とては他後と申すは  
 月夜にては置き置てはるるは  
 川舟一葉の書を置てはるるは  
 ぶりの細い紙ひいてはるるは  
 葉ふり一葉の紙を置てはるるは  
 細い紙を置てはるるは

函の田又丁葉の下の小紙に  
 ぬ向ふ一葉の紙を置てはるるは  
 置てはるるは置てはるるは  
 置てはるるは置てはるるは

と書し置てはるるは置てはるるは  
 置てはるるは置てはるるは  
 置てはるるは置てはるるは

のうらな一首の稿に去本句他借の火とあるを  
そんとは神の心はまほひて<sup>名</sup>のゆりのけと  
うまゝうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
と牛のうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
けのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
<sup>名</sup>うらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
うらのけとま本句のうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
うらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの

歌のうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
後と神のうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
うらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
うらまゝの

と本句のうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
たのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
おのうらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの  
け、うらまゝのうらまゝのうらまゝのうらまゝの

句の物事一まねと生傷をん又各別  
し

去来句は句際といふ文の文際。借際  
の

△あくたつしこむるゆた 去来

と所をさう渡したてあくしこむるゆた  
や去来句はさうやと所は去来と我七物  
やあつしこむるゆた

去来句はさうやと所は去来と我七物

△あまの娘のさうと所は去来と我七物

句のあまの娘のさうと所は去来と我七物  
さうの句はさうと所は去来と我七物  
やあまの娘のさうと所は去来と我七物  
さうの句はさうと所は去来と我七物

去来句はさうと所は去来と我七物

海に聲をよぶの如く〜  
 又抑々の風を吹く〜  
 只構木の浪と〜  
 海と海と〜  
 舟を方々〜  
 一よふふ〜

又能くある〜  
 舟〜  
 舟〜

舟〜  
 舟〜

舟〜  
 舟〜  
 舟〜  
 舟〜  
 舟〜

○舟人の名を呼ぶれ〜 舟部

△舟七〜 舟部



△とまのうそがきくまじいこと

△さうもいふこと

△さういふ人のあつたまじい  
あつたまじい

△細小田のまじい人の類

△まじい人の類

△さういふ人のあつたまじい

△あつたまじい

△さういふ人のあつたまじい

△さういふ人のあつたまじい

△さういふ人のあつたまじい

△さういふ人のあつたまじい

△さういふ人のあつたまじい

△さういふ人のあつたまじい

△さういふ人のあつたまじい

△さういふ人のあつたまじい



とらへ

松平曰而新しき身とていふこと未可なり  
新しき身の新しき物とていふこと苦い  
ことありとてありし身とていふこと付て身とていふこと

△この身とていふこと新しき身とていふこと

△この身とていふこと新しき身とていふこと

おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと  
おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと  
おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと

おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと

おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと  
おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと

△おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと

△おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと

おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと  
おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと

おれおれの身とていふこと新しき身とていふこと

七方十 一連紙のあつてい其のゆゑの(七方十の  
不悟の又念のつて一句は多くいふことおや  
と成回身句二句は十方十の(七方十の(七方十の  
あし考う一句は一句といつては(七方十の(七方十の  
一(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
あつ七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
天象比(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
その(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の

けり物(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
一句七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
と成回身句(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
この(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
て(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
と(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
あし(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
と(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の  
あし(七方十(七方十の(七方十の(七方十の(七方十の







まゝにまゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
同く添へてまゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
杜幸向の向の音無いふまゝ向の向の音  
と云ふまゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
向の向の音無いふまゝ向の向の音  
杜幸向の向の音無いふまゝ向の向の音  
まゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
向の向の音無いふまゝ向の向の音  
まゝと云ふ一語一語を所の凡そをい

のたてまゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
杜幸向の向の音無いふまゝ向の向の音  
まゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
向の向の音無いふまゝ向の向の音

○はらまゝと云ふ一語一語を所の凡そをい

向の向の音無いふまゝ向の向の音  
まゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
向の向の音無いふまゝ向の向の音  
まゝと云ふ一語一語を所の凡そをい  
向の向の音無いふまゝ向の向の音  
まゝと云ふ一語一語を所の凡そをい

る句とひしうらへん伍合老人の口曾と帯一  
我師の偏と疎清と脩のゆゑとゆるし老の  
みあつらうとく極うの句と静ふる句とあわ  
しんす一と句とわ

○おのふのふとひしうらへん伍合老人の口曾と帯一  
我師の偏と疎清と脩のゆゑとゆるし老の

みあつらうとく極うの句と静ふる句とあわ  
しんす一と句とわ

○おのふのふとひしうらへん伍合老人の口曾と帯一  
我師の偏と疎清と脩のゆゑとゆるし老の  
みあつらうとく極うの句と静ふる句とあわ  
しんす一と句とわ





卯ころうんねとせ波老の波日くそるうん  
以難と終うゆふひと海もふうねの只の孫多るひ  
ちののこしとまきき四所をそ作の古友物後  
関才の人ことしとねあそふ他名もしとまき  
乃所捨うてしとこと又いなるは後うん  
むしとふふふふふふ

ちと終鼻園所藏とまきや之新  
と保星丹子馬干まき園心藏  
昔より十歳次丁と免冬



